いま No.38
清掃事業は・・・
▶▶▶▶ 大田区

2020年4月から 在宅勤務の取組を継続実施
感染拡大の防止に寄与

在宅勤務の取組を継続実施

現在オミクロン株の感染が猛威を振るい、職場では一層の感染防止対策の強化が求められていますが、大田区では基本的な対策と併せて、2020年4月から切れ目なく継続している「在宅勤務」の取組が大きな特徴かと思います。

これは14時30分以降、収集作業の終了後に準備のできた時間から16時25分までを「出張」の扱いで順次帰宅させるというもので（再任用職員、会計年度任用職員を含む）、統括技能長や技能長など事務室の職員はローテーションにより対応しています。

この取組自体の効果は専門家ではないため分かりませんが、毎日80名位（事務室を除く）が出勤する私の職場（蒲田）でも、この約2年間で収集職員の陽性者数はわずか2人に止まっていることから、少なからず感染拡大の防止に寄与していることは言えると思います。

ノウハウ継承の課題は共通

職場では「現場ノウハウの継承」が課題となっていますが、可燃収集の委託先である大田区環境公社でも同様の状況が見られます。

2017年の設立以降、段階的に収集業務を受託していますが、日々の業務を回しているのは収集経験の浅い40代後半～50代前半です。自身の事もままならない中、新人の育成もしなければならず、年齢による体力的なダメージも追い打ちをかけます。一方、20代や30代も在籍しますが、各区の採用選考や他社への転職等による入れ替わりも少なくないため、技術やノウハウの継承が思うように進みません。

また、賃金や労働条件などについては、大田区環境公社労働組合（自治労加盟）を結成して、組合員からの意見集約をともに、交渉により様々な改善を勝ち取ってきています。しかし、役員たちに組合経験はほとんどないため、私が特別執行委員となって行動を共にしています。

▲総支部青年委員会による青年独自要請行動

負担をかけずに若手に期待

これまでの3回の新規採用で現在18人の青年が現場で奮闘しています。2017年に行われた14年ぶりの新規採用で6人が入区しましたが、3事務所に振り分けると職場には2名ずつでした。当然にも支部青年部の再開とはいかず、6人の活動の場として立ち上げたのが「総支部青年委員会」です。コロナ禍で思うような行動はできていませんが、感染対策を施して月一回の対面での定例会や、新規採用を求める「青年独自要請行動」（5月）は必ず行っています。

しかし一方で、「これからは君たちの時代だから」という理由で、青年たちに役員を〝押し付ける〟動きが見られます。主体性を育むには「強制」ではなく「共生」です。負担をかけずに期待をかける、その力量が問われているのは私たちの方だと思います。

（組織共闘局　髙橋　正幸）

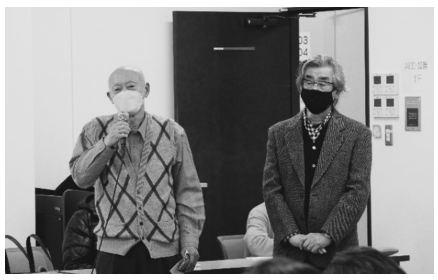
▲コロナ対策の取組

運動方針（案）を提案
様々な工夫を凝らしながら運動の前進を

第10回 中央委員会

2月16日（水）18：00から日本教育会館にて第10回中央委員会を開催しました。

主な議案は「東京清掃労働組合第92回定期大会」に係る、運動方針（案）、各会計予算（案）等でした。


▲退職者会庄司会長（左）戸枝事務局長（右）

新型コロナウイルス感染症が未だ収束の兆しすら見えない状況下でありますが、様々な工夫を凝らしながら運動の前進を図っていかなければなりません。

昨年10月の衆議院議員選挙は、コロナの失政等万策尽きた菅首相が政権を放り投げ、岸田内閣という疑似的政権交代下で行われました。政権側のなりふり構わぬ攻撃により野党共闘が不発に終った選挙区もあり、結果として改憲勢力の伸長を許しましたが、野党共闘がなければもっと厳しい結果になっていたと言っても過言ではありません。今年は、参議院議員選挙が行われます。わが組合としても、生活に関わる重要な取組と位置づけ、我われ現場の声を国会へ届けていくためにも、「鬼木まこと」自治労組織内予定候補の勝利を組合員の総力をあげて取り組んでいかなければなりません。

近年、大規模自然災害が毎年のように日本列島を襲い、全国各地で甚大な被害が発生しています。そうした中、現在、多くの自治体で災害時における現業職員の現場力が評価されてきています。このことは、我われが長年積み上げてきた知識や経験が、災害時の復旧・復興に欠かせない証明であり、継承していくためにも全区で継続した新規採用を勝ち取っていく必要があります。

課題が山積する中、更なる組織強化に向けて東京清掃労働組合第92回定期大会の開催となります。昨年に引き続き、感染症拡大を考慮し、規模を縮小しての開催となります。我われの求める適正な賃金水準や定年延長施行後の労働条件確立のため、向こう一年間の運動方針を確定させていきましょう。

▲方針提起する西村副委員長（中）

また、今中央委員会の冒頭には、お忙し中、退職者会より庄司会長と戸枝事務局長が駆け付け、総力をあげて闘った21賃金確定闘争に対する組合員への激励と退職者会加入のお願いがされました。各支部で今年定年退職される方、再任用満了され職場を離れる組合員への積極的な退職者会加入への声かけの取組みも是非宜しくお願いいたします。

（泉田　和明）

お知らせ

東京清掃労働組合第92回定期大会
日時：3月20日（日）9：00会場　9：40開会
場所：連合会館2階会議室

※昨年同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小し、組合員のみで開催することとしました。
関係者におかれましては、ご理解を宜しくお願いします。

《ひとこと》

▼先日、「日本では70～80年に一度のサイクルで、国体の変更を伴うような破棄と変革が起こっている」という記事を読んだ。1868年明治維新、1945年第2次世界大戦終結、2020年新型コロナウイルス。一方、1923年関東大震災、2011年東日本大震災など、自然の大災害が関連付けられることもある。体験した世代がいなくなる頃に、次がくる。70年～80年に1度、国全体を揺るがす規模の天災が起こるということは、世代間で知の継承がないからなのか。

▼こうした客観的な見方は、私たち東京清掃にも繋がっていることを実感する。区移管から20年以上経過した東京23区清掃事業の変化は、目を見張るばかりで先輩方が得た知識や経験、歴史がフィードバックされていないのではないかと考えられる。このままでは、国体と同じような失敗を繰り返す可能性がある。

▼「歴史は繰り返えされる」と言うが、そうならないように深く学び、真摯に向き合い、周りを恐れず発言していくことが必要なことかもしれない。

（千代田区担当中執　張替　一茂）